



廿日市市教委だより

令和4年
11月29日
第7号

～ 子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち ～



気候も過ごしやすくなり、食べ物もおいしい時期。色々なことに打ち込める絶好の季節の到来です。秋の味覚といえば、サツマイモ、梨、栗、サンマ、松茸、柿…。思い浮かべるだけでお腹がぐーっと鳴りそうですが、なぜ秋には食欲が増すのでしょうか？①日照時間が短くなると、心身の安定につながる脳内の「セロトニン」の分泌が減り、それを補うためにたくさん食べたくなる。②気温が下がると基礎代謝が上がるため、寒い冬に備えてカロリーを蓄えておこうとする。等があるようです。仕事に疲れた時は、栗、かぼちゃ、ぶどうなど“秋の絶品スイーツ”を味わってみてはいかがでしょうか。



給食に阿多田島産の養殖マダイが登場



大野東小5年生
児童が描いたマダイ

市内すべての小・中学校の給食で、大竹市阿多田島産の養殖マダイが提供されました。今回のマダイ提供は、新型コロナウイルス感染症の影響で需要が減少している生産者を支援する国の補助事業を活用したもので、令和2年度に続き2回目です。



大きなマダイに
びっくり〇



「大竹市阿多田島産
の養殖マダイです」



おいさを
笑顔で表現 ☺



調理員さんも
気合いが入ります



動画やパンフレットを
使って学びました



テレビ取材に
トキドキ



おかわりを求めて
長蛇の列が…



鯛めし完食！
おいしかったです



廿日市市では、日頃から地場産物を積極的に活用し、子どもたちに学校給食を通して、新鮮でおいしい地元の食材を味わい、ふるさとへの愛着や、生産者の方への感謝の心を育ててほしいと思っています。

原小学校 「体育に関する指導者派遣事業 走り方教室」

令和4年10月24日（月）原小学校において、男子400mハードルの日本記録保持者で2001年・2005年世界陸上選手権の2大会で銅メダルを獲得した為末 大さんを講師にお招きし、走り方教室が実施されました。

走り方のコツとして、「スタートで地面を蹴ること」や「高く足を上げ、腕を振ること」が大切であることを教えていただき、児童は、熱心に練習に取り組んでいました。

また、質疑応答の場面では、「うまくいかないときはどうするの?」という質問に対し、「おもしろがるのが大切。自分をあきさせない工夫をすると良い。」というアドバイスをいただきました。為末さんの話から、児童は、どんなことでも、簡単に諦めたり、後ろ向きな気持ちで取り組むのではなく、楽しんで前向きに頑張ることの大切さに気づいたのでないでしょうか。

走り方教室の最後には、児童代表が「今日は、走り方のコツとしてスタートの切り方やリズムの取り方を教えてくださってありがとうございました。教えていただいたことを生かして、為末さんのように速く走れるように頑張ります。」とお礼の言葉を述べていました。

きっと、児童にとって、忘れられない思い出となったと思います。



キャリア教育の充実に向けて

【児童生徒に挑戦の機会（チャンス）を！】

学校生活で何かに挑戦するからこそ学校生活が充実し、挑戦に成功するからこそ自信がつかます。周りにも認められます。挑戦は次の積極的な行動を生みます。多くの児童生徒は「失敗したくない」「恥をかきたくない」と思っています。教員が「失敗しても周囲から否定されない」「挑戦すれば周囲からほめてもらえる」という安全な環境を作ってあげる事が大切です。

★挑戦は様々で良い！★

- ◎教科の勉強、部活動、委員会活動・運動会・修学旅行などの学校行事
- ◎作文、美術、音楽、技術・家庭などの各種コンクールへの応募
- ◎英語検定、数学検定、漢字検定の受検
- ◎地域（外部）の行事やイベントへの参加
- ◎習い事、資格、読書、人間関係 etc



★挑戦は記録する！振り返る！★

「キャリア・ログ～わたしの学びの足あと～」の活用

児童生徒に自分なりの目標を書かせ、それが達成できたかどうか振り返らせる。書いて終わりではなく、前の目標やその目標達成の状況を踏まえて「次の目標を掲げ、次の目標達成につなげる」ことが重要です



「学びの変革」の更なる推進

「児童生徒の興味を引き出し、自己実現に導く学びとは、どういった学びなのか。」これからの時代を過ごす子どもたちの資質・能力を育成するための手立てについて、各学校で研修を重ねているところです。

広島県教育委員会では、「学びの変革」を更に加速させるため、令和7年度までに、先生方が「デジタル機器を活用したプロジェクト型学習の実践」ができるよう、研修を組んでいます。



なぜ？どうして？

を解決するために

児童生徒が多様な方法で、情報を得てまとめる。そんな授業を計画するための、考え方や手法を習得する研修です。



【主な内容】

- ・これからの学びの在り方
- ・資質・能力を育成する授業デザイン
- ・発問と評価について
- ・デジタル機器の効果的な活用
- ・プロジェクト型学習の視点を取り入れた単元計画の作成

更なる授業改善を進めていきましょう！



アテンション ぶい~ず !!

今年度、経済産業省「未来の教室」実証事業の指定を受け、働き方改革に取り組んでいる阿品台東小学校の推進者 満田 美由紀 教頭 と新しい取組を実践している 野村 美紀 養護教諭 を紹介します。

Q スバリ！働き方改革とは？

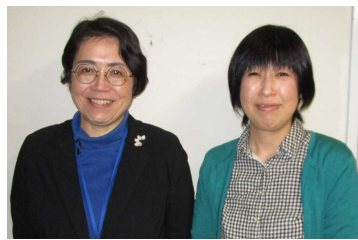
先生たちがいきいきと働くことができるための「生き方改革」です。

Q 推進者としてどんなことを心がけて取り組んでいる？

トップダウンではなく、先生たちの声から出発すること。そして、「やらされ感」ではなく「やっている感」で、先生たち自らが働き方を変えていくという意識に持っていくよう心がけています。

野村先生は、「パソコンは得意ではないけれど、職員室のいろいろな人の知恵が集まり、今回の実践につながった。阿品台東小の職員チーム・ICT支援員さんに感謝です！」とおっしゃっていました。まさに、推進者である満田教頭先生が心がけている自らが働き方を変えていく意識の高まりを感じる実践です。

これからさらに、どんな実践が行われるか阿品台東小学校に注目です！！



満田教頭

野村養護教諭

Q 簡単に実践の紹介を！

これまで、出席確認等をする時には、教室と職員室を行き来していました。今は、Googleのスプレッドシートに児童の欠席等や保健室での休養状況を打ち込み、教室にいる担任が確認したらチェックボックスを押すという方法でオンラインでやり取りできるようにしました。担任からも発信できます。

Q 実践してみて手応えは？

手応えを感じています。

教室を行き来していた時間を、目の前の子どもに使えるようになりました。担任も、教室を空けずに気になる出欠状況を職員室に知らせることができるようになりました。